

はい!

やくも町議会

第 83 号

令和6年11月

編集/議会広報広聴常任委員会

災害に強いまちづくりを!

福島県いわき市・宮城県亶理町を視察してきました。

(12ページに関連記事)



いわき市地域防災交流センター

亶理町防災倉庫

主な内容

	ページ
○令和5年度決算審査	②
○4名の議員が町政を問う(一般質問)	⑥
○補正予算	⑩
○議決・賛否一覧他(定例会・臨時会)	⑪
○議会報告会	⑫
○常任委員会視察調査について	⑮
○常任委員会の活動(所管課報告)	⑯
○ハロウィン実行委員会の皆さん(耳をすまして)	⑱



町民の幸せに つながったか？

右のQRコードから
決算委員会の中継を
見ることができます



1日目



2日目



3日目



せきぐち まさひろ
関口 正博 委員長

【総括質疑】

Q 令和5年度の決算も黒字となったが、町長から見て成果と課題は何か。また、活気あふれるまちに近づいているか。(赤井)

A 決算で余剰金が出たのは、ふるさと納税によるもの。今後、ふるさと納税に頼らずやっていかなければならないと思っているが、心配なのは人口減少による病院経営の悪化。院長はじめスタッフと相談しながら取り組んでいく。新幹線開業に向け活気あふれるまちづくりの政策を検討中であるほか、社会教育を強化し、協働のまちづくりに取り組んでいく。(町長)

【総務費】

Q ふるさと応援寄附金奨励事業
Q ふるさと納税制度がなくなつたとしても、これまで八雲町にふるさと納税をしてきていた人たちに、物産品を買ってもらえるような施策を研究してほしい。(大久保)

A 関係機関と協力して考えていきたい。(町長)

地域公共交通網形成事業
Q 令和5年度の実績と、今後の展開は。(赤井)

A 令和5年度の実績としては熊石・大成間、熊石・八雲間の予約バスに関する補助金など。今後は、八雲町地域公共交通活性化協議会で議論しながら、2か年で計画の見直しも予定している。(新幹線・公共交通参事)

Q 新庁舎への公共交通は確保されるのか。(赤井)

A 確保を目指す。既存の交通機関との関係やルール等もあるので、協議会の中で検討していきたい。新庁舎よりは新幹線開業に合わせて考えている。(新幹線・公共

交通参事)

【地域おこし協力隊配置事業】

Q 孤立している協力隊がいる。全体ミーティングや研修を実施するなど、改善すべきでは。(佐藤)

A 今後、全体でコミュニケーションを図る場などを計画している。(企画係長)

ウクライナ避難民等受入事業
Q 受入れ住宅は空家になってから時間が経っていたが、入居時は不安もなく過ごせていたのか。また今後の活用方法は。(赤井)

A 女性2人だったので、町内会長や警察署に見守りをお願いしていた。エアコンも完備し、快適に過ごしていた。今後もウクライナ避難民を中心に受け入れていくが、域学連携を協定している大学に活用する予定もある。民間宿泊施設もある中、ルール等を検討しながら受け入れしていきたい。(政策推進課長)

Q この事業の不用額の説明を。不用額にせず改修など有効に活用しては。(三澤)

A 当初、ウクライナの方を臨時

職員としての雇用することを考えていたが、雇用に至らなかつたことと、空家については最低限の修繕となったことにより不用額となった。(企画係長)

Q 空家となつている部屋の状態も悪く、使う必要性が出てきたら改修していく。(政策推進課長)

【民生費】

緊急通報体制等整備事業

Q 固定電話回線がなければ設置できない。なおかつ職員が対応することになっていて、違うものに切り替える考えはないか。(赤井)

A 今の緊急通報システムは一方通行で旧式。災害対策と連動して高齢者の見守りができないか研究している。(町長)

子ども医療費助成事業

Q 医療費助成も大事であるが、子ども達の体力・抵抗力向上にも力を入れるべきではないか。(赤井)

A 統計的にも子ども達の体力が落ちている。今後、体力向上につながることを考えてみたい。(町長)



くらち 倉地 きよこ 清子 副委員長

高齢者等入浴料助成事業

Q 物価高騰で入浴料も値上げされている。助成額の見直しをする時期に来ているのではないか。(佐藤)

A 調査しながら検討していきたい。(町長)

【衛生費】

高齢者等肺炎球菌ワクチン予防接種事業

Q ワクチンの接種率が低い、5歳ごとに区切っているため忘れていないのか。(赤井)

A 65歳以上なので、訪問の際に接種を勧めている。(健康推進主幹)

Q 接種率が低いので、5年後の接種にも助成しても良いのではないか。(三澤)

A 国では一度の接種としているが、医師によつては5年後も必要という場合もあるため、町としても研究していきたい。(保健福祉課長)

渡島廃棄物処理広域連合負担金

Q ゴミの資源化を考えると、そろそろ連合を抜けて単独処理も考えるべきではないか。(三澤)

A 広域連合では将来的な施設のあり方について勉強会をしている。令和14年度までは地方債の償還があるが、令和15年度以降については、施設の全面更新等が必要とのことで、八雲町単独で建てた場合のコスト計算等しながら考えていきたい。(環境水道課長)

広域連合にとつて良くても、

八雲町にはデメリットになることもある。八雲町の申し入れが通るようになってくるのか。(三澤)

A 町としても将来的な方向を調査して進めていきたい。(環境水道課長)

海岸漂着物処理事業

Q ここ数年は八雲地域で行われているが、熊石地域でも実施できないか。(斎藤)

A 熊石地域でも、海岸漂着物であれば事業の対象となっている。(環境水道課長)



【商工費】

温暖化対策実行計画策定事業

Q この計画はどの段階までできているのか。進捗状況を町民に知らせる方法は。(三澤)

A 令和5年度に計画を策定した。今後、「省エネの推進」「再生可能エネルギーの利用促進」「廃棄物の発生抑制」「吸収源対策」を基本方

針として、町民ができること、事業者ができることを示し、2050年のゼロカーボンを目指していく。(政策推進課長)

U・ーターン就職奨励金事業

Q この事業をもっと活用してもらうための工夫は。(牧野)

A 正規雇用者に対して補助されるものなので、就職された人数によつて結果が左右されるが、今後とも広範囲にPRしていく。(商工観光労政課長)

域学連携推進事業

Q この事業はどのような効果があるか。(倉地)

A 上智大学との交流は令和4年度から実施している。中高生が大学生と交流することで、大学進学への意欲や語学への関心を高める効果がある。(商工観光労政課長)

鉛川レクセン施設老朽化対策事業

Q この事業の補助率は。設計書や見積書はあるのか。(黒島)

A 定額補助となっている。この事業は民間主体となっているため、町としては図面等の資料はない。(商工観光労政課長)

Q この事業の基本設計料は議会が可決し、2千万円支出されたが、その後、事業自体が否決で中止となり、無駄になってしまった。議会としても深く反省するところであるが、今後、事業を提案するにあたって丁寧な説明をお願いしたい。(大久保)

A 丁寧な説明を心がけていたが、今後、より一層努力していきたい。(商工観光労政課長)

【農林水産業費】

新規就農支援資金貸付事業

経営所得安定対策事業

Q この事業の今後の見通しは。(赤井)

A 生産資材の高騰により厳しい状況であるが、農業改良普及センター等、関係機関と連携しながら取り組んでいきたい。(農林課長)

Q 決算の詳細は。八雲町の支援策が手薄だという声もあるが、どう考えるか。(牧野)

A 令和5年度は4名に支給して合計600万円となっている。町では新規就農に500万円の

貸付をし、八雲町で10年間営農することで免除となっている。また、家賃助成事業も行っている。(農林課長)



バイオマス産業都市構想策定事業

Q この事業の効果は。(横田)

A 5年目で中間評価を行った。研修牧場のバイオガスプラントは令和6年4月から売電を開始している。もうひとつの農家共同運営によるバイオガスプラントは、当初、山崎、熱田、浜松の酪農家13戸で計画していたが、参加希望農家が5戸であったため、事業化困難と判断した。(農林課長)

コンブ礁造成事業

Q この事業の調査結果はどのようなになっているか。(黒島)

A 山越、栄浜、旭丘の3工区で真昆布の繁茂を確認。90%が着床と報告がある。(水産課長)

痩せウニ実入り向上試験事業

Q この事業の期間と成果は。落部漁協が主体であるが、ホタテをやっていない漁師と取り組みを拡大してはどうか。(赤井)

A 令和7年度までの事業で、令和5年度は養殖力ゴ40基、3万2千個を商品化している。(水産課長)

A 漁協と話し合いを進めていきたい。(町長)

ホタテ貝アイヌブランド化事業

Q この事業は3年間の事業だが、延長してほしいとの声はないのか。(黒島)

A 継続してほしいという声は上がっているので、国に要望している。(町長)



ホタテ貝養殖施設適正配置事業

Q 来年、耳吊りができないかもしれないと不安を抱く漁家も多い。

補助等、何らかの支援ができないか。(佐藤)

【A】 両漁協に対して、支援する考えはあると伝えている。(水産課長)

【サーモン養殖付加価値向上推進事業】

【Q】 町民から「どこへ行った食べられるのか」と聞かれるが、町の施策を理解してもらうのが重要ではないか。(大久保)

【A】 サーモンフェアには町内の参加事業者が少なかった。町内外含めて二海サーモンを認知していただけるような施策を検討したい。(水産課主幹)

【教育費】

【教材教具整備事業】

【Q】 教職員の働き方改革に関して、備品購入の際の自己負担や、授業後のコピー機の順番待ちでの時間的ロスについてどう対応しているのか。(倉地)

【A】 教員の備品購入については各学校で共通で使う予算を見ている。コピー機については全学校から要望があるので、教職員の意見を聴きながら、状況に合った内容で

整備していく。(学校教育課長)

【木彫り熊講座開設備事業】

【Q】 木彫り熊100年ということ、公民館講座のほかに「体験講座」のようなものはできないのか。(大久保)

【A】 公民館講座は伝統技法の伝授など後継者の育成も目指している。大勢の受講者を対象にするのは難しい。「体験講座」のようなものは、すそ野を広げるために考えていきたい。(社会教育課長)



【スポーツ少年団指導者支援事業】

【Q】 少年団の指導者のなり手が減っていく中、支援が不足しているのではないか。(佐藤)

【A】 指導者の研修費用として、一人千円で12名分を助成している。(体育課長)

【病院事業会計】

【Q】 令和5年度の患者内訳で、町内と町外の割合はどのくらいか。(赤井)

【A】 町内6割、町外4割となっている。(医事課長)

【Q】 今後、患者輸送バスについて、北部4町との連携に対する見通しは。また、予防医療についてどのように考えるか。(赤井)

【A】 民間の力を借りながら、4町で連携できるように相談している。(町長)

【A】 予防医療については、健診やワクチン接種などを通して地域に貢献していきたい。(総合病院事務長)

【Q】 職員の残業代不正取得について、どう対処してきたか。(佐藤)

【A】 時間外勤務は原則、所属長の事前命令となつているので、厳守するよう指示した。また、勤怠管理システムを導入し、デジタルで出勤を管理している。(総合病院事務長)

【委員長報告】

今後の財政運営を考えると、楽観視できない状況であり、健全で持続可能な財政運営へ向け、一層の努力を切に望むものである。

町の主力産業であるホタテ養殖漁業において採苗不振が発生している現状であり、両漁協と連携を密にし、漁業者の安定した生産の確保と経営安定を図ることを目的に、今後とも注視しながら必要な対策を進めていきたい。

また、地域公共交通網形成事業については、患者サービスの向上及び患者確保対策として総合病院への循環バスの早急な運行体制構築が課題としてあげられる。

特に総合病院については、今後一層の経営改善を行うとともに、町民に信頼され、親しまれ、選ばれる病院となれるよう、引き続き医師確保による診療体制の強化を図り、様々な課題へ向けた対応策を早期に講じながら、安全で安心して暮らせるまちづくりの実現に寄与されることを強く願っております。

一般質問

町政を問う!

※質問した議員本人が原稿を書いています。

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。華やかであるが「力量」が問われる。

Q

ホタテ貝殻の活用について

よこたきよし 議員
横田喜世志



発生するホタテ貝殻は、カキ養殖の資材や暗渠排水資材の原料として、すべてが取引されており、現状ではホタテ貝殻処理に困窮している状況にはないことから、他の用途への活用など検討を行っているのが実態であるが、状況を注視しながら有効活用について情報収集していきたい。

問

ホタテ養殖は八雲町の主要産業のひとつであり、その貝殻を有効利用するため土壌改良材として販売されているが、粉状のため農家にとっては使いづらいという声もある。

令和6年7月29日付けの農業新聞に、北見市常呂町で粒状の有機石灰が開発され、石灰散布の作業効率が向上したとの記事があった。今後、八雲町と協力・共同での工場誘致などの展開できないか。町長の考えを伺う。

町長

町内の水産加工業者から

Q 運転免許証の自主返納支援事業の拡充を

支援事業の拡充を

問

高齢ドライバーの事故が未だに多く見受けられる。八雲町は面積が広く、車が必要な地域に住んでいる方々の不便解消のための支援策を考えるべきではないか。

町長

相対的に高齢者の事故の割合が増えており、特に認知症高齢者の危険運転による重大な交通事故の増加がみられる。

交通安全防止の観点から、運転免許証の自主返納を促すため、自動

Q エアコンの設置に補助を

車運転免許証自主返納支援事業（代替交通手段としてタクシー利用券の交付）を令和2年度から実施している。公共交通機関や移動支援サービスも含め、地域の特性を検証しながら、総合的に研究していきたい。

問

今年も全国各地で熱中症による死亡者が増加しているが、生活保護世帯や非課税世帯についてはエアコンの設置が難しい状況であると思われる。町の補助制度により設置する考えはないか。

町長

ここ数年、一般家庭ではエアコンを設置する家庭も多いが、一方では扇風機で十分対応できている家庭もある。本州などの暑い地域に比べると、必ずしもエアコンは必需品ではないように思われる。八雲町では35度を超える猛暑日もなく、暑さが続く期間もそれほど長くなく、現時点では町から補助を行う予定はないが、今後、検討は必要であると考えている。

Q 再生可能エネルギーの進化

ともこ 議員
さとう 佐藤



問 (1)「ペロプスカイト」という折り曲げられる太陽光発電パネルがある。屋根、壁、ガラス上にも設置が可能だ。耐用年数を過ぎた際の処分もしやすい。新役場庁舎に採用できるのではないか。

(2) 十勝の鹿追町に家畜由来の「バイオガス」からLPガスを生産するプラントが建設されることになった。当町も研究に着手すべきではないか。

町長 (1) 新庁舎は「ニアリーゼブ」(25%以下にエネルギー消費量を抑えたもの) 基準の建物として国から補助を受けて整備する。

その申請が令和7年4月頃。それまでに使用電力と発電容量を確定させる必要があるため、ペロプスカイトの導入は難しいと判断している。

(2) 鹿追町は20年間のFIT(固定価格買取制度)が3年後に終了するのを見込んで実証試験を行うことになった。八雲町はFITの有効期限が10年以上残っているのでも当面の間は現状のバイオガス発電を継続していく。

Q 福祉タクシー事業の拡充を

問 現在、福祉タクシーチケットは75歳以上、町民税非課税世帯が対象だが(年間1万2千円)、それを拡充して課税世帯にも配布してはどうか。

町長 令和4年度に対象年齢を80歳から75歳に拡大、助成額を1万円から1万2千円に増額してい

る。課税世帯を加えた場合、事業費の大幅な増額が見込まれるため、新たな対象の拡大は考えていない。

Q 地域猫との共生を目指して

問 地域で暮らす猫は、畑や花壇に入り込み、ふん尿等で迷惑をかける。繁殖を繰り返し、増えていく場合もある。このような野良猫に善意で避妊・去勢手術をして

いる人は全額自己負担で、オスなら1万円以上、メスだと2万円以上等高額である。そこで「公益財団法人どうぶつ基金」の「さくら猫無料不妊手術事業」を利用してはどうだろうか。全国の行政と協力して無料不妊手術の申請受け付けなどを実施している事業である。手術代はすべてこの「基金」が負担し、自治体や希望者の持ち出しは無い。当町もこの事業に参画してはどうか。

町長 「どうぶつ基金」が推奨している「さくら猫TNR先行型地域猫活動」は、猫を捕獲し不妊手術を行い、元に地域に戻す事業で、

不妊手術で耳をV字カットした猫を「さくら猫」と呼びます。



猫の減少には寄与するが、地域に戻った後の畑や花壇へのふん尿被害の根本的解決には至らないので、「どうぶつ基金」への参画は考えていない。

猫の不妊手術に助成する町になつてほしいと願う、質問しましたが、ご近所トラブルの話になってしまいました。質問の仕方に工夫が必要ですね。(佐藤)

Q 銭湯を実現するために

問 町民の「銭湯がほしい」という声に、どう応えるか。

町長 公衆浴場は民間でやっ

てもらうのが一番いいと思っ

Q

「八雲町公共施設等総合管理計画」は

現状に合っていますか？

あかい 赤井 むつみ 睦美 議員



ができないものがあるのではない
か。そのように考えたとき、この
計画内容は八雲町の現状に合っ
ているのか。

町長

過去に整備してきた公共
施設のほとんどが、現在20年以上
経過し、経年劣化等による更新期
を順次迎えつつあり、今後これら
の更新費用が町財政の大きな負担
となる。将来の公共施設の運営
費・整備費の圧縮を総合的に図り、

問

各自自治体が持続可能なまち
づくりを目指すこの計画は、八雲
町では2016年に策定し202
2年に見直されている。八雲町に
おける人口減少は国から言われな
くても、町長が一番肌で感じてい
ることと思う。そこでこの計画を
立てるうえで一番重点を置いたの
はどこか。

また、この計画では、将来に向
けて公共施設の面積をなるべく小
さくし、維持費がかからないよう
にするのが目的だが、病院とか学
校は人数や面積だけでは測ること

町財政の軽減を図りながらも町民
の充実した生活環境を維持してい
くため、今後も利用実態や町民
ニーズの変化に柔軟に対応し、最
善の方策を取り入れていく。

Q 「立地適正化計画」の
進捗状況は？

問

ネットワーク型コンパクト
シティの実現のため2014年に
国が指示し、八雲町では2019

年に策定された。富山市では国が
言う前の2007年から、各課は
もちろん民間とも連携しながら自
分たちにとって最も良い形を考え
実践し、富山県は人口減少しても
富山市は暮らしやすい町というこ
とで、移住が増えているとのこと。
八雲町でも、各課の連携と町民
との協働で、住み慣れた地域に住
み続けながらも「便利になった」
ことを実感できる計画の推進を早
急に検討してほしいと思うが、い
かがか。

町長

立地適正化計画の中で八
雲町の課題を整理しながら、将来
も持続可能なまちづくりを目指し、
各課でそれぞれ政策や計画、具体
的なものを推し進めている。

来年から病院の患者輸送バスを
無料で落部から黒岩、熊石までの
運行計画を進めているが、公共交
通は大変難しいと感じている。町
内会館も、災害の時の避難所や選
挙の時の投票所になることもある
ので、全体を見ながら職員や町民
の意見も聞きながら進める。

富山市のコンパクトシティ (富山市のホームページより)

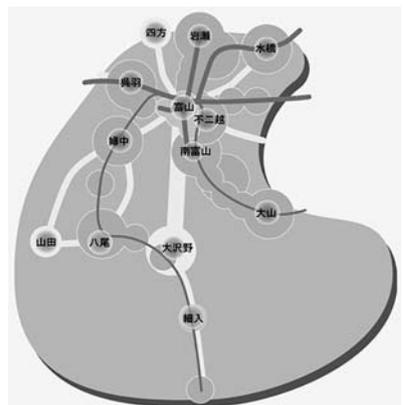
富山市が目指す、「お団子と串の都市構造」

【串】：一定水準以上のサービスレベルの公共交通

【お団子】：串で結ばれた徒歩圏

公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、行政、文化等
の都市の諸機能を集積させることにより、**公共交通を軸とした拠
点集中型のコンパクトなまちづくり**を実現。

- ①交通の活性化
- ②公共交通沿線地区への居住推進
- ③中心市街地の活性化



Q 交通の安全を上げるためにすべきこと！

お公雄 議員
みさわ 三

問 生活道路や通学路で一時停止線や白点線が消えている。一斉に塗り直しをしようか。

町長 一時停止線などの白線は、町が管理するものと、横断歩道など公安委員会が管理する規制表示がある。

町道は巡回確認で把握し、交通量の多い生活道路、通学路、除雪等で損耗した箇所などを計画的に毎年度、塗り直している。

公安委員会の部分は警察側の実施計画と擦り合わせる必要があるが、一斉に毎年やることも研究対象にしてみたい。

問 国道、道道の植栽帯で草が伸び放題の箇所が見られる。コミュニティ活動の助成対象として、住民活動による草刈りや景観維持を推奨する施策は考えられないか。

町長 町村会でも獣害防除の観点で草刈りをもっと真剣にやるべきだという議論になっている。国や北海道に対して、しっかりと予算確保の要望をしていく。

町民参加の草刈りについても、やってみようという団体があれば、予算を確保して試験的にやってみたい。

問 免許返納について、「高齢」危険」なのではない。

安全運転意識向上の施策を提案する。ジェネクス社の「AIコネクタクト」というアプリは、GPSを活用してドライバーの日常の運転を記録して、安全意識や技能を判定してくれる。

このアプリを導入し、本当に返納が必要なドライバーと、判定結

果を活かして安全意識向上に取り組めるドライバーとに分けることができれば、返納者向けの福祉タクシーチケット等の予算拡充も進めやすくなるのではないかと。

町長 アプリのほかにも新たな公共交通や移動支援サービスも含め、様々な手段を研究していきたい。

Q 待遇に格差があるのはなぜか？

問 正職員と会計年度任用職員の間には待遇差がある。正職員の病気休暇、健康管理休暇、短期介護休暇は有給だが、会計年度任用職員は取得できても無給だ。これらの休暇は子育て世代の職員には必要である。条例を作れば対応はできるはず。町長の考えを伺う。

町長 これまでも職員組合との交渉で町独自の改善はしてきた。こちらから働きかけることもできるので、待遇改善を図る方向で検討していきたい。

問 早期離職対策に、若手職員に対する今後のキャリア形成への希望や目標等について意見交換で

きる仕組みを作れないか。社会教育関係団体の有志が加わって、相談や意見交換ができる場があれば、若手職員にとっては自らの属する部署や同期以外にも相談できる人脈ができることになり有意義であると考えます。

町民が考えている「まちづくり」と役場の「まちづくり」の違いを知ることや、町外から採用された職員であれば、町民との接点にもなるだろう。

若手職員のキャリア形成、悩み相談に社会教育部門が担える部分があるのではないかと。

町長 地方公共団体ではいろいろな部署に携わるためキャリア形成は非常に難しい。人材育成基本計画も大枠は作られても細部になれば画餅で終わってしまう。

また、働き方、人生設計の考え方も多様化していて、最初から5年10年勤めたら新しいキャリアを積み重ねていくところへ行くという考えで入る職員もいる。これからのいろいろな対応を皆さんと共に考えて進めていきたい。

第3回定例会

令和6年度一般会計補正予算

6,194万9千円追加

(補正後の総額 170億9,404万1千円)

第3回定例会は9月4日から9月12日までの会期で開かれました。補正予算、条例の改正、専決処分の報告など、追加議案を含め、議案7件・承認1件・報告4件・諮問1件・同意1件・認定9件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

補正の主な内容

公共土木施設災害復旧調査設計業務委託料

510万4千円

公共土木施設災害復旧工事請負費

1,545万5千円

7月28日～29日にかけて降り続いた大雨により道路護岸が決壊した、町道相沼川沿線の復旧にかかわるもの。国の災害復旧事業の申請に要する費用の他、応急工事により暫定的に通行を可能にするための費用。

施設修繕料・機械器具等修繕料

1,276万円

老朽化が著しい鉛川レクリエーションセンターの修繕費用。屋根の軒先等の修繕、設備棟屋根の修繕、原水消毒用として稼働している薬品注入装置の取替によるもの。



報告

株式会社青年舎の経営状況

令和5年度は、搾乳ロボット等により軽減された労働時間をデータの解析に充て、乳牛疾病の早期発見・治療、低コストでの自給飼料増産の他、飼料設計の見直しによるコスト低減に取り組み、農業所得の向上に努めてきた。経営改善と労務改善に向けた取り組みを行ったが、配合飼料や資材価格等が高止まりしている中、酪農経営の大幅向上には至らず、5,880万6千円の当期純損失となった。

株式会社木蓮の経営状況

令和5年度は、本社部門として八雲町の企業版ふるさと納税の受託手数料、木彫り熊グッズの販売を収入減としたが、人件費等の増加により1,001万円の当期純損失。丘の駅部門は「丘の駅」の運営を担い、観光需要の回復、各種イベントへの積極的参加により、1,032万5千円の当期純利益。廃校活用事業の運営については施設の利用率が増加した一方、水道光熱費の上昇により6万3千円の当期純損失。連結決算において25万2千円の当期純利益となった。

定例会・臨時会議件一覧

令和6年第3回定例会（令和6年9月4日～12日）			
認定第1号	令和5年度八雲町一般会計歳入歳出決算認定について	議案第7号	令和6年度八雲町一般会計補正予算（第7号）
認定第2号	令和5年度八雲町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	報告第1号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）
認定第3号	令和5年度八雲町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）
認定第4号	令和5年度八雲町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	報告第3号	株式会社青年舎の経営状況の報告について
認定第5号	令和5年度八雲町熊石地域簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	報告第4号	株式会社木蓮の経営状況の報告について
認定第6号	令和5年度八雲町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	同意第1号	八雲町教育委員会委員の任命に関し同意を求めることについて
認定第7号	令和5年度八雲町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
認定第8号	令和5年度八雲町病院事業会計決算認定について	発委第1号	国土強靱化に資する社会資本等に関する意見書
認定第9号	令和5年度八雲町水道事業会計決算認定について	発議第1号	新型コロナウイルス感染症に対する経済的な負担軽減を求める意見書
議案第1号	年末年始の休日を変更することに伴う関係条例の整備に関する条例	発議第2号	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の潜在的な患者に対する適切な対応を求める意見書
議案第2号	行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例	発議第3号	訪問介護報酬引き上げの再改定を早急に求める意見書
議案第3号	財産の取得について	発議第4号	自動運転移動サービス等の社会実装に向けた環境整備を求める意見書
議案第4号	町道路線の変更について	議員派遣の件	
議案第5号	令和6年度八雲町一般会計補正予算（第6号）	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出について	
議案第6号	令和6年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）		

異議あり！

第3回定例会 賛否一覧（反対のあった議案を掲載）

賛成 ○ 反対 ×

議 案 名	採決結果	赤	佐	横	大	関	宮	倉	三	牧	安	斎	能	黒	千
		井	藤	田	久	口	本	地	澤	野	藤	藤	登	島	葉
		睦	智	喜	保	正	雅	清	公	仁	辰	實	正	竹	隆
発議第2号 新型コロナウイルス感染症に対する経済的な負担軽減を求める意見書	否 決	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	×	／
発議第2号 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の潜在的な患者に対する適切な対応を求める意見書	可 決	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	○	欠	○	／

※千葉隆議長は、賛否同数の場合にその可否を決定します。

開催しました！



八雲会場

7月22日、はぴあ八雲で開催し、昼24名、夜11名の皆さまの参加をいただきました。

(醸造用ぶどう栽培について)

- ・人口も減少していく中、専門的なことを八雲でできるものなのか。
- ・わらび野と上の湯地区のぶどう栽培は今後どうなるのか。

(ウイスキー事業について)

- ・大手企業がすでにいる中で、今から参入してやっていけるのか。

(その他)

- ・銭湯を再開してほしい。町で浴場をつくれなのか。
- ・農業者が減っているが大丈夫なのか。
- ・もっと農業・漁業にお金を使うべき。
- ・補聴器の助成をお願いしたい。
- ・人口減少の中、サーモン事業などいろいろな取り組みをしているが、将来は自立し、いつまでも町費を投入しないようにしなければならない。
- ・新庁舎の中にお風呂を設置してもいいのでは。
- ・青年舎は軌道に乗っているのか。

わらび野と上の湯は、今後も“八雲ワイン”のための醸造用ぶどうの出荷畑となる予定



昼の部

議会のうごき

《8月》

- 7日 総務経済常任委員会
- 21日 文教厚生常任委員会
議会運営委員会
- 30日 議会運営委員会

《9月》

- 4日～12日 第3回定例会
決算特別委員会
総務経済常任委員会
広報広聴常任委員会
全員協議会
議会運営委員会
- 19日 文教厚生常任委員会

《10月》

- 8日 広報広聴常任委員会
- 11日 総務経済常任委員会
- 15日～16日 総務経済・文教厚生
常任委員会視察調査
- 17日 文教厚生常任委員会
- 18日 広報広聴常任委員会
- 30日 第5回臨時会
全員協議会



開かれた議会
をめざして

議会報告会

～皆さんの声を聞かせて下さい～

熊石会場

7月22日、くまいし館で開催し、15名の皆さまの参加をいただきました。

(保育園留学事業について)

- ・人口減少の熊石で継続できるのか。施設の運営も大丈夫か。
- ・地域としても協力できるよう、町連協などとも話し合っ、できることはやっていきたい。

(サーモン養殖について)

- ・近隣町でも養殖しているので、熊石としての差別化を図らなければならないと思う。
- ・流通や販売など、近隣町との連携がなければ成功しないのではないか。
- ・漁業権や海流の変化等による影響はどうなのか。

(その他)

- ・熊石地域は空家も多くなっており、除雪の機械を持っている方が好意で除雪をしているが、油代など町から出すことはできないのか。
- ・連合町内会で毎年町に対し要望書を提出しているが、議会は内容を把握しているのか。
- ・町に要望を出しても何でもダメと言われ、伝える気力がなくなる。
- ・雲石峠は事故が起こる前に草刈りをしてほしい。



落部会場

7月22日、落部レクリエーションセンターで開催し、3名の皆さまの参加をいただきました。

(醸造用ぶどう栽培について)

- ・ぶどう栽培はいろいろな地域で取り組んでいるようだが、うまくいくのか。

(保育園留学事業について)

- ・落部もこのような取り組みができればいいと思っている。

(その他)

- ・子どもが少なくなって部活動も大変。スポーツ少年団をもっと応援できないか。
- ・落部レクセンでは葬儀も少なくなっていることもあり、運営が厳しい。

今年度、ヤマソービニオン278kg収穫！（去年の18.5倍）収穫の翌日には醸造のため出荷！



議会カフェを開催しました！

令和6年10月6日（日）、木育事業において議会カフェを開催し、皆さまの声をいただきました。

アンケートのまとめ！

Q.八雲町の良いところは？

- ・自然が豊かで、とても暮らしやすい。
- ・子育て支援も充実している。
- ・スーパーや公共施設がまとまっていて暮らしやすい。
- ・生活に困らない、適度に買い物できるお店がある。
- ・都市にも近くて旅行や買い物がしやすい。
- ・木育事業のように子どもも楽しめる行事が多く嬉しい。
- ・牛乳、鮭、ホタテなど特産物に恵まれている。
- ・自然環境に恵まれていて、再生可能エネルギーで自立可能な自治体だと思う。



Q.「こんなものがあったら良いな」というものは？

- ・ファミレス、メガネ屋、ドライブスルーの店、映画館、ゲームセンターなどがあればいい。
- ・丘の駅がありますが、もっと全道的に有名な道の駅を目指してほしい。
- ・大型遊具が公園に設置してあると日常的に行きやすい。
- ・木で遊ぼうのおもちゃがとても楽しいので、年1回ではもったいない。
- ・はびあみみたいに、休憩出来て避暑になる場所や世代を超えて集える場所を増やしてほしい。
- ・ベビーカーを押して歩くときなど、道路が悪いので良くしてほしい。
- ・小さくても、町内循環バスがあると良い。

いただいたご意見を参考に、より良いまちづくりに取り組んでいきます！

議会これからの予定

《11月》	14日	総務経済常任委員会
	21日	文教厚生常任委員会
《12月》	4日	議会運営委員会
	9日～12日	第4回定例会 全員協議会
		総務経済常任委員会
		広報広聴常任委員会
		議会運営委員会
	19日	文教厚生常任委員会

議会を傍聴してみませんか

次の議会は、
令和6年第4回定例会

12月9日（月）午前10時から
開会の予定です。

お気軽に足を運んでみてください。

YouTubeで映像配信もします

視察調査に行ってきました

10月15日～16日、総務経済・文教厚生常任委員会で、住民が安心・安全に暮らせる災害に強いまちづくりの参考とするために東北地方へ視察調査に行ってきました。なぜ今防災なのかというと、近年これまで想定してきた規模を上回る災害が多く起きており、八雲町においても、令和6年4月から新しく危機対策課を新設し、災害に強いまちを目指し「八雲町防災計画」の見直しを行っています。

また、災害時における「避難行動要支援者」の個別避難計画の作成が市町村の努力義務となったことから、東日本大震災の被災地である福島県いわき市と宮城県亘理町の取り組みや、最新の防災拠点について学んできました。

参加議員

【総務経済】牧野仁 大久保建一
倉地清子 関口正博 宮本雅晴
【文教厚生】赤井睦美 黒島竹満
齋藤寛

【議長】千葉隆

1日目 いわき市

いわき市では「逃げ遅れゼロ・災害死ゼロ」を目指し、避難行動要支援者(自力で非難が困難な人)支援制度への対応として、令和4年度から「個別避難計画」の作成を始め、行政と地域(自治会等)が情報を共有し、年4回その情報を更新します。



いわき市地域防災交流センター

また、災害時に頼りになる「防災士」を育成するため、市民を対象に資格取得にかかる費用を市が助成し、年100名以上の「防災士」を増やしているそうです。

2日目 亘理町

亘理町では、東日本大震災以前から毎年1回、全町民を対象に「総合防災訓練」を実施しており、震災時には、その訓練が実際の避難行動に活かされたそうです。震災後も毎年9月第一日曜日を「総合防災訓練の日」と定め、訓練や防災意識を高める活動を続けています。

また、災害時の協力先として、ドラッグストアやガソリンスタンド、レンタル会社、遠隔地の自治体など様々な連携協定を結び備えています。



要支援者登録制度について学ぶ(亘理町)



亘理町防災倉庫

【感想】

どちらの町も、東日本大震災という未曾有の災害を経験しているだけに、取り組みが本気で、あくまでも災害対策や避難行動の原則は「まずは自助であり、次に町内会や近隣などの互助、最後に自治体からの公助」なのです。

自分の身を守るためには、普段からの防災教育や避難訓練、防災意識の向上が重要だと、あたりまえのことですが、改めて強く教えられました。(大久保)

常任委員会 の活動

令和6年8月から令和6年10月の
各常任委員会の活動です。

文教厚生

●熊石地域における保育園留学の
取り組みについて（住民サービ
ス課）

保育園留学受入事業の中止

事業開始に向けて6月下旬から
事業者との協議を重ねてきたが、
8月上旬に事業者から、熊石地域
での保育園留学の実施は厳しいと
の連絡があり、受入事業を中止す
ることとした。

中止になった理由

- ・園児の数が減少していく中、10年後が見通せない。
- ・在園児数が少ない保育園では、利用者の満足度を上げられない。
- ・事業者の現在の人員体制では、厚沢部町と熊石地域は近隣であるため、双方に迷惑をかけてしまう。
- ・厚沢部町で様々な取り組みをしている中で、近隣地域だと資源も似てしまうため、他の道南地域では事業展開しない判断をした。
- ・現状、滞在施設がないことと、長期滞在に耐えるプログラム展開に不安がある。

今後について

- ・引き続き子育て世代の受け入れを可能にするための体制を整える。

〈熊石保育園留学〉

- ・幼児はくまいし保育園に通園
- ・保護者は旧すまいるでリモート
- ・住居は旧熊石高校教員住宅を予定

【委員会での質疑】

Q 中止になった理由は初めから
わかっていたことなのに、なぜ、
今頃中止となるのか。

A 窓口の担当者は進めると言っ
ていたが、本社でダメになった。

Q 熊石だけにこだわっていたら
施設を活かしきれないので、もっ
と広く考えるべきでは。

A 単独では難しいと思っている。
今もペコレラと連携して行ってい
るので今後も続ける。

Q 今後、施設は指定管理となる
が、どのような内容で進めていく
のか。大切なのは金銭面の自立と
経営。

A まだ設計もはっきりしていな
いので、内容も決まっていない。
団体としては自立を目指し、でき
ることから始めようとしている。

Q 補正予算で上げた金額はどう
なっているのか。

A まだ契約していないので、そ
の予算は使われていない。

Q これから旧すまいるの改修に
取りかかると、関係人口拡大にば
かり重点を置かず、地域の声も聴
いて、より多くの人たちが使える
内容にしてほしい。

A 地域の声も十分に活かしてい
きたい。

Q 予算を計上した時に、この事
業をやることについて、本社で決
定されていることを確認したのか。

A 見積書が出てきたので当然や
ると思っていた。予算が決まらな
ければ契約ができない。



「関係人口拡大は大切だが、そ
れだけで旧すまいるを維持してい
くことは非常に困難ではないか。」
「地域の声を十分に活かして、よ
り幅広く活用できるよう多様なプ
ログラムを策定することが大切。」
「施設の指定管理料を支払うのだ
から、それに見合った活動内容が
必要。」等々の意見が出ており、今
後もしっかりと注視していきます。
(赤井)

総務経済

●株式会社青年舎の令和5年度経営状況について（農林課）

昨年度から引き続き配合飼料や資材等の価格が高止まりし、個体販売価格の低迷という状況が変わらない中、5880万6千円の当期純損失となった。更なる経営改善、労務改善に取り組んでいく。

【主な経営改善の内容】

- ・搾乳ロボットにより軽減された労働時間をデータ解析に充て、低コストで自給飼料を増産。
- ・飼料設計の見直しにより繁殖成績を向上させ、和牛子牛の生産販売を開始した。

【委員会での質疑】

Q 固定資産（機械）売却収入1400万円について、2年目で売却した理由と購入の経緯は。

A 開業時の経営者の判断で購入し、その後、経営改善・労務改善の中でコントラクターに委託したほうが効率が良いと判断し売却した。

Q 当初は3年目で黒字化し、利益を農業振興に使うという計画だったが。

A 経営改善はもとより、研修機能の充実も担い手育成センターと連携し進めていく。

Q 視察の受入れが増えていると聞いているが。

A 令和4年度は18件、令和5年度は37件、今年度は更に延びている。

●株式会社木蓮の令和5年度経営状況について（商工観光労政課）

「木蓮部門」「丘の駅部門」「観光・交流促進部門（ペコレラ学舎）」の連結決算において、木蓮本体の企業版ふるさと納税の利益貢献と丘の駅の営業実績が改善されたことにより、25万2千円の当期純利益となった。

令和6年度は、各部門の更なる充実を目指す。特に本体における人材育成事業として引き続き八雲高校ビジネス科との「町おこし事業」に力を入れる。

【委員会での質疑】

Q ペコレラ学舎（旧大関小）の活用実績は。

A キャンプ場利用232件、イベント活用13件、レンタルスペース20件、サウナ小屋15件など合計で602件、約299万円の収入があった。

Q 委託料の130万円は何か。

A 清掃作業などを委託しており、清掃作業の委託内容は青年舎から請け負っている研修棟の清掃である。

Q 青年舎が委託料を負担し木蓮がペコレラを使う、木蓮が委託料を負担し研修棟の清掃作業を行う・・・不自然であり、解消すべきと思うが。

A 解消に努めたい。

●地域会館の備品整備について（政策推進課）

八雲地域と熊石地域で整備方針が矛盾していたため、新たな方針を定めることとした。

【対応方針（案）】

・新設地域会館に限り備品購入費は上限を定め町が負担する。

・指定管理者の費用負担軽減として、比較的費用負担が大きいとされる消防設備については町が負担する。

・地域会館備品設備費補助金交付事業を創設する。補助率は2分の1（上限50万円）、補助金交付後3年間は申請不可。

【委員会での質疑】

Q 補助金交付後3年間は申請不可とあるが、緊急性がある場合の対応は。

A 状況により判断できるように、条項を定めていく。

予算委員会の質疑の中で、八雲地域と熊石地域での整備方針に矛盾があることがわかり、新たに定めることになりました。

●公共施設の使用料の減免について（政策推進課）

令和7年4月から公共施設の使用料減免対象の団体を拡充する。

対象団体：八雲町文化団体連合会、熊石文化協会、八雲スポーツ協会、熊石スポーツ協会に加盟する団体。

耳をすまして

町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。

今回は

ハロウィン実行委員会の皆さんです！

Q ハロウィンはいつから始めたのですか？
この取り組みの面白いところ、苦労しているところは？

・2017年から始めて7年目。面白いところは、商店の人たちと繋がりができ、子どもたちの笑顔が見られるところ。でも、お店とのやりとりがなかなか難しいです。

Q 八雲町の良いところは？

・人間味がある。
・福祉が充実している。保育園も数か所あり、困ることがない。
・一次産業を中心に体験できるところが多い。
・イベントが多くあるので、世代間交流がしやすい。
・海、山、川と全てあり、いろいろなことに挑戦している人が多く、楽しい。

Q もっと良くなってほしいところは？

・人口減少に対応できるように、一次産業を活性化し、二次、三次産業に繋げてほしい。
・中高生に一次産業の体験を。
・奨学金返済や高い家賃など、生活が苦しいので、一人暮らしに手当てがほしい。
・0～2歳児の保育料を無料にしてほしい。
・若い人が集まる場所がなく、町外で遊ぶ。
・eスポーツの普及につなげるためにも、対戦型ゲーム機のあるゲームセンターがほしい。
・若者が町に対する関心が薄い。中高生が、大人と関わる機会が少ない。
・若いときは八雲町に愛着がなかったが、イベントに関わるようになって変わってきた。
・福島県の大葉未来学園では、総合学習の時間に徹底的に地域の方と関わる取り組みをしたことで、町のために何かしたいという気持ちが強くなり、大学へ行っても60%以上がUターンしている。八雲町でもそうした取り組みが必要だと思う。



・ニセコバブルが落ち着いてきて、道南に移動してきている。八雲でお金を使ってもらえるよう、もっとPRすべき。
・八雲には美味しいものがたくさんあるので、宿泊施設も含めて、対応を工夫したほうが良い。
・結婚して八雲に来た人にも支援がほしい。
・町のホームページが検索しづらく、ほしい情報になかなかとどりに着けない。
・14人も議員がいるのに、一般質問するのはいつも決まった議員だけ。何も問題がないと思っているのか。

・・・取材を終えて・・・

今回は取り組みの内容ももちろんですが、19歳と21歳のメンバーから「中高生が町に愛着を持てるように！」との言葉が出たことに頼もしさを感じました。



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。製作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

編集後記

本誌15ページでも紹介しているが、視察調査で福島県を訪れた。

ここまで来たら・・・原発事故周辺の人が住まなく（住めなく？）なってしまう地域も訪れ、また、「東日本大震災・原子力災害伝承館」も見学することができた。

多くの住宅は廃墟となり元凶である爆発後の放射能汚染された原子炉等施設の解体は、その技術を開発しながら進めるため、あと30年から40年はかかるというわ

れている。原発には賛否両論あるが現状ではリスクだが、これ以上高出力な発電法は確立されていない。暗澹たる思いになる一方で、更なる快適さを求め益々大量の電気を消費していく現状に「人間の不条理さ・欲深さ：逞しさ」に思いふけっ

てしまう帰路であった。そんな私を家では「ルンバ」が迎えてくれた。

議会広報広聴常任委員会
委員長 大久保 建一